



令和5年8月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

3歳児クラスの子と神経衰弱をしました。クマの形のカードをひっくり返して同じ絵柄を当てるのですが、トランプほど枚数が多くなく、3歳児にとって楽しみやすさがあります。普段から神経衰弱が好きな子が「いれて」と来た友達を快く受け入れ、保育士と3人で勝負が始まりました。勝負と言ってもそこは3歳児で、自分がカードを当てる事が出来ると気持ちに余裕が生まれ、次に保育士がほとんどまぐれで一組当てると「やった～」と自分のことのように喜んだり「どこだろうなあ」と悩んでいる友達の手を取り、正解のカードまで導く優しさまで見せていました。全てのカードが無くなり誰が一番多いか確かめる方法が、枚数ではなく重ねたカードの高さ比べという点も微笑ましく、何とも平和な雰囲気でした。

3歳児にとって遊びはまだ自分自身が楽しいかどうかであるのに対して、成長とともに勝敗へのこだわりを見せるようになり、時には負けを受け入れられずに勝負そのものから遠ざかろうとする姿も見られるようになります。保育士は勝ち負けより遊びそのものを楽しんでほしいという思いを抱く一方で、負けた時の悔しさを原動力にして、やがて勝った時の喜びに辿り着くであろう子どもたちの成長を見守りながら、どんな感情も全て受け止める存在でありたいと思っています。2回戦全力で勝負した保育士の順位はどちらも最下位。子どもの持つ力、柔軟性には敵わないことも痛感しました。

子どもたちの会話の中に、ご家族と過ごす夏を待ち望むような言葉が聞かれます。ご家庭での経験が保育園での遊びに再現される日を楽しみにしています。



プールじまい (3・4・5歳児クラス)

水遊び終了 (0・1・2歳児クラス)

中旬 身体計測 避難訓練

なんで

疑問に感じて、つぶやいて

5歳児クラス (ひまわり組)

散歩で急な坂を上った時のことです。「すごい坂だね」「転がり落ちそう」「こんなすごい坂を作った人がいるんだね」と、一つの坂に様々な思いを馳せる子どもたちに驚きました。調理職員に子どもたちの目の前でスイカを切ってもらった時は「どうしてスイカって三角に切るの」「三角の方が食べやすいからじゃないかな」「持ちやすいからだよ」と疑問に感じたことや自分の考えを言葉にしていました。スイカの正解は「どの子にも甘い部分がいきわたるように」と聞いて「知らなかったよ～」と感心していました。新しい知識を得たことがとても嬉しかったようです。

どうして

心も体も開放して

～毎日楽しんでいきます、水遊び～



0歳児クラス（つぼみ組）

テラスでの初めての水遊びの日は、何が始まるのかと不思議そうな表情でその場に座っていました。保育士が「パシャ パシャ パシャ」と声を掛けながら洗面器の中の水を叩いてみせたり「グル グル～」と混ぜて水の流れを作ったりしていると、保育士の顔と手元を交互に見つめていました。「気持ちいいよ」と声を掛けると洗面器にそっと手を入れ、笑顔を見せていました。きっと気持ち良さを感じられたのだと思います。水が安心なものだとわかるとタライの水をバシャバシャと大きく叩いて水しぶきを浴びたり、容器の中の水をひっくり返して冷たさを感じたり、ジョウロから流れる水に手を伸ばしたりしています。



水の感触を全身で感じながら心地良く過ごせるよう、発達に応じた遊びの提供をしていきます。

1歳児クラス（ちゅうりっぷ組）

たらいに入った水をコップやひしゃくですくい、ペットボトルに入れていきます。こぼしながらも水が入ると、再びコップに移し替えて楽しんでいました。「りんごジュースください」と保育士が声を掛けると、移し替えに集中していた子どもの表情が、保育士とのやり取りを楽しみにする表情に変わりました。コップに水を注いで「りんごジュースです」と持ってきたので「ごくごく ぷは～」と飲む真似をすると「みかんジュースです」「ぶどうジュースです」と色々な味を提供していました。保育士とのやり取りに満足すると、子ども同士で乾杯したり「おなじだね」「おいしいね」と言ったりして遊びが盛り上がっていました。コップに口をつけずに飲む真似をしたり、友達と簡単なイメージを共有しながら遊ぶ姿に成長を感じます。

色水や氷など遊びに変化をつけることで、水の心地良さ、面白さ、友達と共有できる楽しさにつなげていきます。



2歳児クラス（たんぽぽ組）

タライに片方の手をそっと水に入れると驚いたような表情を見せながらも、もう片方の手も入れてみえています。じんわり伝わってくる水の冷たさや心地良さを感じているようです。保育士や友達と目が合うと「冷たくて気持ちいいね」と感じたことを伝え合う様子が嬉しそうです。

ザルで水をすくってみたところ、すくえなくて「あれ」と不思議そうな表情を見せる子がいました。他の子も試してみますが結果はもちろん同じで「え～（どうして）」と目を見合わせています。「穴が開いているからかな」と気付くと「これならできるかな」とザルの中にハンカチを敷き、再びコップの水を流します。すると、一瞬ですが水が溜まるのを見て「お～」と声をあげて大喜びしていました。

思いついた事を何でも試してみた結果、発見や気づきがあり、友達と喜び合える経験が“もっとやってみよう”という意欲につながっています。子どもたちの好奇心を満たせるよう、じっくり遊ぶ経験を重ねていきます。

